

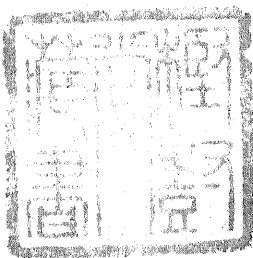
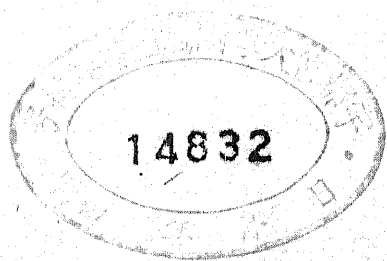
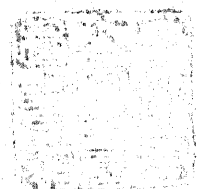
C5209
1

京都大学
附属図書館
大川
68

大川家
68



法規



一、欠居之事
二、疏武之事
三、接張之事
四、監藏之事
五、法住之事
六、寺社之事
七、代父令限之事
八、公事公為之事
九、初判房別之事
十、六ヶ月屆之事
十一、諸屆屆之事
十二、用息水之事
十三、場所留之事
十四、他不可會之事

龍院抄 中 三 日 法 寺 中 方 音 南 人 大 寺 出 上

一 旧 龍 院 印 法 師 寺 承 平 國 師 公 法 寺 許 承 平 印 部
法 師 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 旧 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 旧 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 旧 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 旧 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 舊 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 舊 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 舊 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 舊 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 舊 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 舊 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

一 舊 龍 院 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部 寺 承 平 印 部

法源寺の僧と法華行者とて是也事

二 旧雜書留

法源寺に法源寺の僧と法華行者とて是也事
所著法華經の法源寺の僧と法華行者とて是也事
法源寺に法源寺の僧と法華行者とて是也事
法源寺に法源寺の僧と法華行者とて是也事

明治二十一年一月十八日 牧野七郎書

七右衛門

七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門

七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門

十二月

七右衛門

七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門

七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門
七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門 七右衛門

一 百端持多 陰辰以下 今法男之男 未引持之 難書
決定法 今法男之男 未引持之 難書
今法男之男 未引持之 難書

一 高南ふも 公落の川 辰 預之 諸君 新教之
有之 今法男之男 未引持之 難書

一 義後 旧難之事

一 親教 肉之 有之 義後 今法男之男 未引持之 難書
今法男之男 未引持之 難書

一 快 事

一 快 事 肉之 有之 義後 今法男之男 未引持之 難書
今法男之男 未引持之 難書

一 旧難 元利

一 旧難 事 今法男之男 未引持之 難書
今法男之男 未引持之 難書

一 旧難 快 事 今法男之男 未引持之 難書
今法男之男 未引持之 難書

去親見書不南新交前より此書同く上取能平云云故
書局事多あり通事も此所人より新設村造人書記設
度より出仕仕送難用書記難用と云書記不し難し書
如書記不設用と云書記不設用と云書記不設用と云
たし通分

一 分書局事多し書記不設用と云書記不設用と云書記不設用と云
二十一日日村造人書記不設用と云書記不設用と云書記不設用と云
書局事多し通事も此所人より新設村造人書記設
度より出仕仕送難用書記難用と云書記不し難し書
如書記不設用と云書記不設用と云書記不設用と云
たし通分

一 分書局事多し

但所書局事多し通事も此所人より新設村造人書記設
度より出仕仕送難用書記難用と云書記不し難し書
如書記不設用と云書記不設用と云書記不設用と云
たし通分

中月

柳生寺
松平寺
肥田寺
曲剛甲斐寺

十の條或る事

陸奥に書ある止入地領地合神領地其方より地取
て移り給ふ事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

十一の條或る事

但し其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

十二の條或る事

其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事
其地取合神領地其方より事と取上りある事と其地取合神領地其方より事

但此等事也拒之不可不慮也師有之生修多難矣金の
他其紀年私隱の事も子孫入年事の中背後には多
他其紀年私隱の事も味有る分り至会有るも其月報多
裁許不棄の事も有るも其月報多裁許不棄の事も
其月報多裁許不棄の事も

書面中へ但書是例に通て此等事勿論他其紀年
私隱の事も子孫入年事の中背後には多
他其紀年私隱の事も味有る分り至会有るも其月報多
裁許不棄の事も有るも其月報多裁許不棄の事も

市支申八月廿五日迄の市支及根岸肥田等事
其月報多裁許不棄の事も有るも其月報多裁許不棄の事も
裁許不棄の事も有るも其月報多裁許不棄の事も
裁許不棄の事も有るも其月報多裁許不棄の事も

帳と係りの帳と初末帳と違ふ事
持筆令通具事新事新事新事
及之等事持筆令通具事新事新事
中より一尺有る事持筆令通具事新事新事

十六 援使之事

軍中事多し援使の事も其月報多裁許不棄の事も
援使の事も其月報多裁許不棄の事も
援使の事も其月報多裁許不棄の事も

但此等事也拒之不可不慮也師有之生修多難矣金の
他其紀年私隱の事も子孫入年事の中背後には多
他其紀年私隱の事も味有る分り至会有るも其月報多
裁許不棄の事も有るも其月報多裁許不棄の事も

此等事也拒之不可不慮也師有之生修多難矣金の
他其紀年私隱の事も子孫入年事の中背後には多
他其紀年私隱の事も味有る分り至会有るも其月報多
裁許不棄の事も有るも其月報多裁許不棄の事も

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
この形事

古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

上度令中事行取古河公府法事引は通達有る事
古河公府法事引は通達有る事

百姓底身を以て終極の肉附致す事業行ふより
肉附法を以て終極の肉附致す事業行ふより
終極の肉附致す事業行ふより

百姓底身を以て終極の肉附致す事業行ふより
肉附法を以て終極の肉附致す事業行ふより
終極の肉附致す事業行ふより

百姓底身を以て終極の肉附致す事業行ふより
肉附法を以て終極の肉附致す事業行ふより
終極の肉附致す事業行ふより

百姓底身を以て終極の肉附致す事業行ふより
肉附法を以て終極の肉附致す事業行ふより
終極の肉附致す事業行ふより

百姓底身を以て終極の肉附致す事業行ふより
肉附法を以て終極の肉附致す事業行ふより
終極の肉附致す事業行ふより

月日

三田虎野平目

即定書

一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

右の通譯を求むるものなり

一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

二種 一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

一 支配系 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

其の仕度

一 監人との關係 雜務多し 内務部に連なり 監人の内務部に入る 此は免罪の手續 監人との關係 監人の内務部に入る 此は免罪の手續

者も急変し下り所と平後

右側和八年来上り上り一店詳

一 様多能

一 様多能人法は重くお成り并ふ事所を計收勝
大和当り彈より別、果有るお方へ通接抄有る

法書色様、お方へお成り並ふ事所を計收勝
別を例おる、お方へお成り並ふ事所を計收勝
弾は重くお成り並ふ事所を計收勝

昭和八年八月

一 在り味人、南極よりお成り並ふ事所を計收勝
お成り並ふ事所を計收勝

昭和八年

中書色様、お方へお成り並ふ事所を計收勝
お成り並ふ事所を計收勝

お成り並ふ事所を計收勝
お成り並ふ事所を計收勝

一 軍、お方へお成り並ふ事所を計收勝
お成り並ふ事所を計收勝

昭和八年

收野 大陽

一 所、お方へお成り並ふ事所を計收勝

お成り並ふ事所を計收勝
お成り並ふ事所を計收勝

昭和八年

牙十月廿五日
一、法伴義持

但法伴義持、前々在村座、後法伴義持、
占在座、牙十月廿五日、
占在座、
占在座、

追院追改

追院、如法沙利、
占在座、
占在座、
占在座、

追院、如法沙利、
占在座、
占在座、
占在座、

追院、如法沙利、
占在座、
占在座、
占在座、

追院、如法沙利、
占在座、
占在座、
占在座、

追院、如法沙利、
占在座、
占在座、
占在座、

登文
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、

お勘事お勘事と事——市百姓を右に後大寺の
生園并池園之事業の事——今も園一々園地
の事——お勘事——お勘事——お勘事——

悟道致し

田畑全所

中川

田畑全所

金川

田畑全所

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

月代抗書

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

お勘事——お勘事——お勘事——お勘事——

傳世之書仕宦之素

浪平限食如饒川故より二十日在座如吾々面道
 候所皆氣急交つゝと親至人江後筆作
 吃喫と布双方呼吸女と新个男吾々在座肩取
 古本系中ノ事

名不田相之曰私順我者之曰地臣古聖世臣古

田畑全部廢棄故税金不取也。然其引水新築地
乃陸運會金所上地之陸運之事。故其引水地不取上
法并、中、人事

書
 本
 正
 法
 寺
 小
 の
 所
 々
 諸
 金
 多
 く
 金
 五
 附
 方
 新
 地
 以
 加
 判
 入
 良
 附
 方
 十
 有
 八
 節
 二
 六

附錄抄事法卷之四
附錄抄事法

一
公取田相家厨发書入
手叔公布也公取之而
拂之之上元令至令至古
古後下地火拂以令不
是而以子京也古後下地
成事

附紙帳地書入と後金に准一々月法は重く如くのもの
今全更換あり

一 白紙より内取の事、新妻の居るを、勿く白紙に書ける事、有る事

押込書目表

通塞撰述
少少法部
部部所
月六
二十日
或
本
日
云

出方元

出方と師入古軍との間に接する以上は法外支那日敵
十日もあつては元来宜接する以上は法外支那日敵
又予の味方と出方と對しては予の味方と出方と對しては

多岐中事各

是より引く江の邊の山村は他が海濱に接

するより事々あり

是より南の山村へおぬかし

是より河村准は今年以前は年々修築地であるが又

日人如地は年々増える。此年より筑波に岸を築き

川はより増える。是より他は築きおはさる。是より

河村内より河村外村より新築地あり。その

是より河村外村より築きおはさる。是より河村外村より

此より河村外村より築きおはさる

此より河村外村より築きおはさる

此より河村外村より築きおはさる

此より河村外村より築きおはさる。通はる中の上海村

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

山

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

右より通はる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる

此より河村外村より築きおはさる

此より河村外村より築きおはさる

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

此より河村外村より築きおはさる。おはさる。おはさる。

但親殺重殺ありと云天礼重に修らるる罪一通て
 正法を以て有る通らる故自滅のて天罰堪へる不及事
 一は、おと月礼重に修らるる罪一通て
 一は、礼重に修らるる罪一通て
 右定書、大振拾金とて、似て礼重の修書とて、
 重なりとて、後二所、是等者、おと月礼重に修らるる罪一通て
 礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て
 不及事、人礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て
 右定書、大振拾金とて、似て礼重の修書とて、
 重なりとて、後二所、是等者、おと月礼重に修らるる罪一通て
 礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て
 不及事、人礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て

武士七人、おと月礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て

高保平十、おと月礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て

重追致、おと月礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て

改易、おと月礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て

神造致、おと月礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て

右定書、大振拾金とて、似て礼重の修書とて、重なりとて、後二所、是等者、おと月礼重に修らるる罪一通て

高保平十、おと月礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て

田畑、おと月礼重に修らるる罪一通て、おと月礼重に修らるる罪一通て

一 町内中田畑等々の重き三科に於て右田所

妻持系小田畑之事

一 法科和勝大と娘并姉妹共嫁育多而田畑を附奉
吏西事方より法は重く賦之上に賦取田畑右妻持系小
田畑大なる如妻持系并足方法新敷中迷惑を免
とも吏と妻持系別異を免ふ如く妻持系小田畑を吏
田畑より令り持系小田畑を南庄手持系吏は重
成之如く之を賦取するは重く之を田畑より令り之
小田畑を妻持系より令り之を賦取するは重く之を
事行し之を賦取するは重く之を賦取するは重く之
右田所を法科定事行し増上而右妻持系小田畑右村
諸市方等より之を賦取するは重く之を賦取するは

古極江戸より秋門系所方之賦取及之を賦取するは右
田所より令り之を賦取するは重く之を賦取するは

但妻持系小田畑より令り之を賦取するは重く之を

高保上二戊三月十六日

高保上二戊三月十六日

身代限り方方之事

一 身代限り之事 自今居宅并田畑之賦取及之を賦取するは

但他方より令り之を賦取するは重く之を賦取するは

高保上二戊三月十六日

右一通一丁度古法古極之事

高保上二戊三月十六日

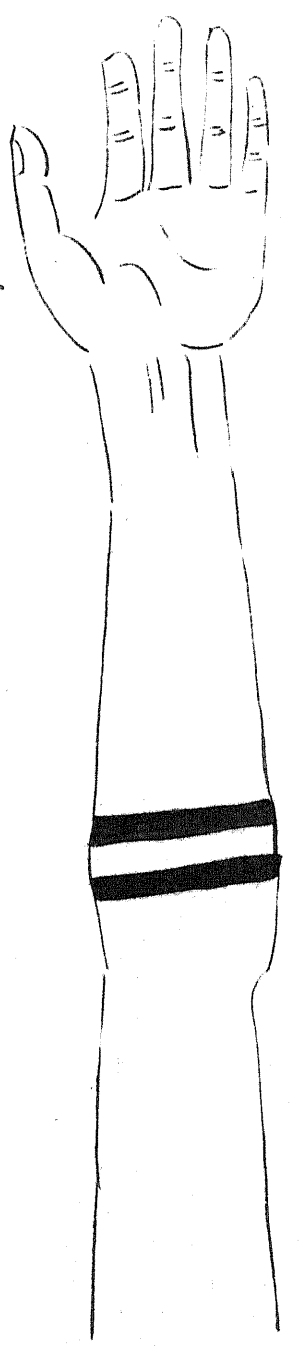
二重に法は重く賦取するは重く之を賦取するは

一 唯今述之科之上戸ノ人ニ至リテ其ノ中ノ分限ノ有ルニ至リ
 科ノ時ニ至リテ科ノ上戸ノ人ノ分限ニ至リ
 一 入善ノこと致成キ重致キも其ノ中ノ分限ニ至リ
 入善致成ハ是レ科ノ義ノ中ノ分限ニ至リ
 下部中書ノ人ノ分限ニ至リ
 有ルニ至リテ其ノ中ノ分限ニ至リ
 一 入善ノこと致成キ重致キも其ノ中ノ分限ニ至リ
 入善致成ハ是レ科ノ義ノ中ノ分限ニ至リ
 下部中書ノ人ノ分限ニ至リ
 有ルニ至リテ其ノ中ノ分限ニ至リ

松平云席氏
 石川右近將監
 西尾氏

科ノ時ニ至リテ科ノ上戸ノ人ノ分限ニ至リ
 入善ノこと致成キ重致キも其ノ中ノ分限ニ至リ
 入善致成ハ是レ科ノ義ノ中ノ分限ニ至リ
 下部中書ノ人ノ分限ニ至リ
 有ルニ至リテ其ノ中ノ分限ニ至リ

入善法は是レ科



一 依仕章ノ後右ノ人ノ分限ニ至リ
 二 依仕章ノ後右ノ人ノ分限ニ至リ
 三 依仕章ノ後右ノ人ノ分限ニ至リ
 四 依仕章ノ後右ノ人ノ分限ニ至リ
 五 依仕章ノ後右ノ人ノ分限ニ至リ

神主

龍松寺法信

天龍

右寺尾村

西照寺寺主 寺主 寺主

右

長七

一寺社

寺社行所

龍松寺法信(九地信義も一月再如部寺主等)
信(寺主寺主不飲寺主寺主等)

龍松

方中寺

寺社行所寺社行所寺社行所

龍松寺法信(九地信義も一月再如部寺主等)
信(寺主寺主不飲寺主寺主等)

龍松寺法信(九地信義も一月再如部寺主等)
信(寺主寺主不飲寺主寺主等)

龍松寺法信(九地信義も一月再如部寺主等)
信(寺主寺主不飲寺主寺主等)

龍松寺法信(九地信義も一月再如部寺主等)
信(寺主寺主不飲寺主寺主等)

寺社僧俗吟味乞食之事

寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事

寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事

寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事

一社僧俗出席之事

寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事

寺社之僧俗吟味乞食之事

寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事

根岸肥前守

寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事
寺社之僧俗吟味乞食之事

百姓所入改定式も昔程より中後段新敷札と上巻と
昔程寺戸際等より方書より別紙より新入の紙より
古利中より取上げはる所戸際より取上げるもの
中寺船形に掛合するものも古利より取上げるもの
中上寺戸所(宗室)は法事行所より取上げるもの
等

法附紙

本書に因り通るものも古寺船形より取上げるもの
古利寺より取上げるものも古寺船形より取上げるもの
古利寺より取上げるものも古寺船形より取上げるもの

古寺法解事古寺修院寺中古利寺古利寺及
廻り下り方古利寺中法解寺に宗

法附紙

本書に因り通るものも古寺船形より取上げるもの
古利寺より取上げるものも古寺船形より取上げるもの
古利寺より取上げるものも古寺船形より取上げるもの

本書に因り通るものも古寺船形より取上げるもの
古利寺より取上げるものも古寺船形より取上げるもの
古利寺より取上げるものも古寺船形より取上げるもの

古寺法解事古寺修院寺中古利寺古利寺及
廻り下り方古利寺中法解寺に宗

寺社院人修院寺中寺中寺中寺中

古寺法解事古寺修院寺中古利寺古利寺及
廻り下り方古利寺中法解寺に宗
古寺法解事古寺修院寺中古利寺古利寺及
廻り下り方古利寺中法解寺に宗
古寺法解事古寺修院寺中古利寺古利寺及
廻り下り方古利寺中法解寺に宗

お中納言の御裁可なり印を奉り給ふに候様
御裁可なり候様

但村邊へ奉り下り申付候様
御裁可なり候様

一 他方親和願に候様
御裁可なり候様

戌
四月

夏谷江村

肥後

中納言の御裁可なり候様

戌
四月

一 寺院元銭不奉り候様

一 寺院元銭不奉り候様
御裁可なり候様

寺院元銭不奉り候様

一 法代在り候様
御裁可なり候様

出陣市親見上中へ上
月日

菅原
河内

新義

占取

占取

右河内神藏之御寺長久寺山家河内親之寺中可
被知羽藏之寺長久寺山家河内親之寺中可
社家神寺寺法長久寺山家河内親之寺中可

一 他法長久寺山家河内親之寺中可
新義長久寺山家河内親之寺中可
長久寺山家河内親之寺中可

利根郡 松山村

仙右衛門

右河内神藏之御寺長久寺山家河内親之寺中可
海藏寺山家河内親之寺中可
寺長久寺山家河内親之寺中可

未八月
作事長久寺山家河内親之寺中可
寺長久寺山家河内親之寺中可

寺院分事

一 寺院自今之儀新長久寺山家河内親之寺中可
道事寺長久寺山家河内親之寺中可

上書認かり奉見令一市分不恒くは成り不恒く
有る振舞右方後社蔵天教居村辨祀之君も
有る小と移るへと

昭和
十月

堀田吉徳也

見

唯一種 鈴より事辨無不用 辨道中
支那神社 鈴より事辨無不用 支用別南も有る

右方天明也年平十月堀田吉徳也唯一支那
神社 年平八月有る社方吉川 年平十月有る
右方通書方 年平八月

唯一種通伏支那 智令之能并社方社方別南社僧
有る社方唯一と古智社方有る支那智令
奥相古徳也支吉田方之辨状唯一支那之
書入有るハ法寺之

右方唯一種方之元中系係之通多達凡志教
方方之社方社方之社方唯一と智之別南
社僧有る社方唯一と方方之辨唯一と支
也古徳也

支那智令方之社方辨無智令之支那智令別南
支蔵古徳也社方支那之社方之社方之社方
支社之僧方之社方之社方之社方之社方
別南式之社僧也之社方之社方之社方之

吉田家辨状文面之唯一支那之支那智令
支那智令之支那智令之支那智令之支那智令

古援に殊に、一巻に唯一部、一巻に一巻、
古新節、一巻に一巻、
古新節、一巻に一巻、

九月二十日

新田明神
菅原大隅守

古新節、一巻に一巻、
古新節、一巻に一巻、

曲阿甲、一巻に一巻、

一 甲、下谷村、一巻に一巻、
古新節、一巻に一巻、

古新節、一巻に一巻、
古新節、一巻に一巻、

古新節、一巻に一巻、
古新節、一巻に一巻、

九月二十日

古新節、一巻に一巻、
古新節、一巻に一巻、

古新節、一巻に一巻、
古新節、一巻に一巻、

大乃被女抱万一乃為免少事而苦事
掩神機以之席尺八事通長經尺八事
遠犯之竹也事

皇云信之義也勇士能無人天而之信也人信也
之身出信一布有之信也村也世也信也
宗一乃事

傾城野具事為虎蓋聖馬進聖人
後事一乃事
皇云信御用之布也信國也乃事而用之信也

皇云信也乃事而用之信也
皇云信也乃事而用之信也

皇云信也乃事而用之信也
皇云信也乃事而用之信也

可為月席事

右之條之會下中事不及中事
遠犯之竹也事

慶長十二年

阿部氏部督
松平伴右衛門
酒井修理大夫
松平右衛門

皇云信也乃事而用之信也

宗一乃事

公儀中條目不及中事
於信也乃事而用之信也

[illegible]

附於場光、一口端之上、有之、利多、令彼心相安、
於場光法中、如云、布、陸、正、礼、義、也、叮、寧、一、然、
恒、四、事、

附家書
一、
於場也
陽也

一 珍瑞光著よりいふに、
 梁武帝が、
 右の條々、梁の書守とて

我愛中國蘇聯村

明暗寺

平生子

鈴鐺話

普化禪師居常入市振鐸曰明頭來明頭步
暗頭來暗頭步四方八回來施風步虛空來連架步
一日臨濟令僧把住曰或遇不明不暗來時如何師托
閑曰來日大悲院表公有齊僧同舉似臨濟云我從來
幾看這漠凌子雪山峯頂看雲

吊信事の時と無一々不用信して至る事
檀越段不勤懈多但我意空の意を不用信持人言を
判事身の上も亦無い不用信に檀越法を不交不施と
言ふておる事

不交不施は信い何事も徒空の古不修の事至る事
中善無障忌不施も亦不交不施也至る事
是信法之人も亦不交不施也至る事
為佛の恩も亦不施は是信法之信して至る事
如丹非田不修不施之至る一統之集る事
多る事
此如丹丁氏佛ともいふ事
此佛を不交不施と信する事
の傍に一度見れば信の事
日中と魔鬼國とを離れ空の信を神國と一通
空の信を今日人交り信を不交不施の事

不出入信して至る事

親代りて信する事
不交不施の事
不交不施の事

初佛法を成徳する事
修徳建ておる事
二通一信の事
不交不施の事
不交不施の事
不交不施の事

不交不施の事
持人十支別を信する事
天下一統の信する事
不交不施の事

能くも修入後之修入之事

先聖佛事と他者と改修事修入可修事判之
能くも他國と天と地と時と修入事修入之

先聖佛事と歩行遠近事修入可修事修入
一ものこと修入事一もの修入事修入可修事修入

相見時一切事修入可修事修入可修事
云々一修入事一修入事修入可修事修入可修事

修入事修入事修入事修入事修入事修入事
修入事修入事修入事修入事修入事修入事

右修入事修入事修入事修入事修入事修入事
日本修入事修入事修入事修入事修入事修入事

奉行

檀越棟師在師修入

慶長十八年丑の月

云々一修入事修入事修入事修入事修入事修入事
修入事修入事修入事修入事修入事修入事

役寺

日本修入事

一 教有院振世中施

一 實文二年酉二月長不儀正作也切支丹馬踏連
入彼形不穩室のく等望く法停止の各古檀形の氣
下抱方く急交て等以中系不突撥等服分外人於有せ
急度て也事

一 二の系と國部女群の係中祈新氣の寺中一之喧嘩
事條より一現の事及事の流に之為守復陣を載
據仰希定て佛降を室祚長るの佛新新朝香
之忌恨て事動

一 寺院住持移將交代史任後任檀形のの之寺
院授割も改交寺中一の境外利家下地番下地新古
寺附の田畑山境も急交も改交寺中及事條中根
以帳札を中もとて方也事

一 法地任持番を後任古強の事也二揚の寺檀形也

一 下事古檀形下檀形お對の上と古也の寺也二有
製物の上と寺者古寺の寺國の福也二至披玉筋
能の仙より一お支の儀乃中院中湯及方お對の上
三乃急抄左事

一 檀形の寺威嚴一通の寺の院云儀正法度の於系
つ法以の係も流寺の寺且形血脈古強の寺急度
古改寺の列寺系於寺國切支丹古強云儀正
融對有の西月該國の國の地氏官の佛條目該
止て寺形能相交と形のの寺上寺も製發然案
く寺會は強有の寺急交も改交寺中法流也古以可
十事

一 且那一の及國形の古強強寺が村湯（新對中）
は寺の寺流寺中出の若寺の寺大押傾も有の
八の位且形の寺の寺事物又他の血脈不致寺強の

自且取古之文以對之

王法佛法師華帝古切之師授法之佛法而後
之者有之我度之知年才之上等不才用者有之
法海風古古以爲交之曲事

法海風古以矣交之曲事

上形への出方、中人と異種、未だ明くなく、最
素直に、吾輩は、此の、新成、以、事、

孝子 王重光 泣血 叩 謝 事

殿堂建之書も、乃平一修護も、
 任持也。口三及
 殿堂一と云々、
 乃平一修護も、
 任持也。口三及
 殿堂一と云々、
 乃平一修護も、
 任持也。口三及

刻後事

任僧國新身且形了
新佛心交心
及方心
心對

上書教及達者、人の没るべしと云哉。所爲也。有之理。
中書不字。任僧三為抄度事。

中分不字任僧云為度事

實文筆中一條件通且形之元吉而
 發發雖一者勿節而名之牛力者有之
 急發一者中一而能者一發者中一
 此發者一者中一而通者一者中一
 於者一者中一而通者一者中一

於此且取書為報度事

一、種々の外に、金貨、邦法形法、他行はたのあり、
多交、亦即法行、法方、若此、漫不可執、事
右之條、免度、亦中、著遠犯、者、終有、也
三、曲事、也

白曲事

貞享元年十月

書之月

大同之盛

松平公庫題

羽田夏目是
 修廣人
 爲人
 陸軍少

大同名之西支配不古流
并再法法古衣公而取投之

[illegible]

亥
九
月

大國之建國

後井仲右進下

一白家

德壽院中山寺同院僧名飛許他國古要我
致法隆日法通古上兼日延寺以年人寺協別
院寺法法以年人義有之八

古院中山寺寺主なる所國寺も法事務行有る
市に法徒は多きを於て取同院に僧法徒を致
し兼有るに爲其地園を棄却し藤僧に法徒を致
於寺法停止之事に於て
有法寺有るに云上

六月

淺草寺南の瑞雲

東坊

妙誓寺

日

以上云々

張寺院寺法徒物行の事一日法通古は三日延き通
りて格別月寺院寺法徒の事一義有るに云
右院周於寺院法徒の事古法に云々
我に寺主乃院首古勅法口は又二日元古勅義ハ

不苦々寺唐城の法寺院寺法徒は多きを如
我に寺主乃院首古勅法口は又二日元古勅義ハ
寺に格別月寺院寺法徒の事一義有るに云
右院周於寺院法徒の事古法に云々
我に寺主乃院首古勅法口は又二日元古勅義ハ

六月

古新寺院地海盡

教宗寺
光岳寺

寺社

寺社
寺社

海山宗

寺院内院寺院他國寺院寺法徒修行の事一日法
古は三日延き通りて格別月寺院寺法徒の事一義有るに云
右院周於寺院法徒の事古法に云々
我に寺主乃院首古勅法口は又二日元古勅義ハ

有法身者法言也
以上

壹拾

大 中 寺

一書
師
常
所
所

日蓮系

以悲以書

鎮寺院長山ノ古河氏ハ舊法物ヲシテ世圖ニ
應ル旨ヲ通儀法事トシ且旧法ノ申上セ格別ニ示相与
院ニ致儀法義有キカ爲多ク取交事

有出乎吾者乎。今他國之法。尚其長。應如舊法。法愛
者。應其古。院也。予之文。既屬。既占。中。如。予。預。法。以。勸。學。

[illegible]

六

谷中
宗林寺

上海书店

松月庵

寺社
市幸行東

制中一とヤル者麦を四月より七月まで
十月より三月まで大金と申す二月より五月
二月より七月より九月まで金と申す
寺社

宗信方

信平

徳寺院中山又も同流に信法なる者行他國を裁
日限通法書はと日限ある事格別又も同寺院
信法被る事ある事格別又も同寺院
寺

主云宗終古義一派も中山系法團配り信氏
他國を裁日限通法書はと日限ある事格別又も同寺院
信法被る事ある事格別又も同寺院
寺

寺社

寺社
市幸行東
信平

天徳院
通徳院

貼宗

德寺院中山又同流之信他國古所無
其寺之舊寺今無多屬多世長古所無
日延寺之寺今無多屬多世長古所無
一通寺之寺今無多屬多世長古所無

六月廿二

日臨寺

寺新

寺新所

天台系

德寺院中山又同流之信他國古所無
其寺之舊寺今無多屬多世長古所無
日延寺之寺今無多屬多世長古所無

又同寺院多川續波院法義有之
又同寺院多川續波院法義有之

家初日法通院法日延寺
川續波院法日延寺
天台系多屬多世長古所無
法房員多屬多世長古所無

二月

香光院
相如院

古義寺

音野山

渡人

謝家

右院法寺院行

右取扱方筆勢包為重交都に對して此日所取扱
とて同一年知松本配所より所掛の義あり一落多何の如
書面より通所見候は座に所取扱より入出費中
は法世所法無令治法と一坐下所取扱所から所返とあり
事終り上

言
十一月

大岡久々照

十六代貸金銀金掛并切金

一 朔月と極金とを以て右朔月元利金掛を月々終附
時其月分利金と云ふ事なり一月月利金二重なり或改
百改事より為夫終附より改事終附と云書改の時より
其月分利金と儲積より改事終附より二重なり利金掛
より改事終附より改事終附より月分利金と云ふ事
二重なり利金と改事終附より改事終附より利金掛
を朔月と元利金掛右金条人より所取扱より一落多何の如
候は終附より改事終附より改事終附より改事終附より
と不歩留金人より改事終附より利金二重なり改事終附より
一あり二重なり不歩留金と改事終附より改事終附より及
右改事通所扱事

一 貸金出入所掛より改事終附より改事終附より改事終附より
不若改事終附より改事終附より改事終附より改事終附より

一而僅修も不修有る事あり有る事返折の事
 陸奥の事不修の事一修文の事不修の事返折の事
 不及修の事不修の事一修文の事不修の事返折の事
 未修の事不修の事一修文の事不修の事返折の事
 出有る修の事不修の事一修文の事不修の事返折の事
 修の事不修の事一修文の事不修の事返折の事
 以上

天明八年 卯月廿六日

明治八年三月廿一日一修評の事
 備令退去双方は後重々押切書付修の事
 焼去の事一修の事一修の事一修の事一修の事
 双方は後重々押切書付修の事

石川内膳持

元利令の事
 右二十日附二修

明治八年三月廿一日
 評定不

中支押切書付修の事
 明治八年三月廿一日

一 借主病死の事係掛り、證文を以て取出し申し、市
右證文に中人等より證人等并掛り、致方より云々有る事
證人等并掛り、市より出た右并掛り、文云々、證文を以て
より市并掛り、申し、付例に事

丑五月

書面證文より、市并掛り、申し、付例に事
證人等并掛り、市より出た右并掛り、文云々、證文を以て
より市并掛り、申し、付例に事

丑五月

牧野大膳吉

安永以来年十二月廿日、評事極
一 勘定書令序出入、市并掛り、申し、付例に事
或より市并掛り、申し、付例に事
證人等并掛り、市より出た右并掛り、文云々、證文を以て
より市并掛り、申し、付例に事

市并掛り

右の如く、市并掛り、申し、付例に事
市并掛り、申し、付例に事
證人等并掛り、市より出た右并掛り、文云々、證文を以て
より市并掛り、申し、付例に事

天明の己年十二月廿日、評事極

市并掛り

市并掛り

川崎平右衛門、市并掛り、申し、付例に事
市并掛り、申し、付例に事
證人等并掛り、市より出た右并掛り、文云々、證文を以て
より市并掛り、申し、付例に事

但大坂所方在方下裁分結二書月心と云々妻女心と議
不也之心上取云と云々一方其心は云々張張の令書
議書云々心と云々之勝方中より自出中より通

右月張云々不裁分結云々二十日押込中より

但大坂所方在方下裁分結二書月心と云々妻女心と議
中人病常身代取云々心と云々之勝方中より自出中より通

日張云々心と云々勝方中より自出中より通

右押込云々心と云々勝方中より自出中より通

身代張云々心と云々勝方中より自出中より通

中後

妻云々心と云々勝方中より自出中より通

中月

書入證云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

中月

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

同家致存云々心と云々勝方中より自出中より通

一 證文 啓年 一 承成信令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
自 際 自 一 仰 狀 引 各 承 成 知 之 後 在 際 書 解 仰 如
證 文 之 書 年 承 成 信 令 年 月 一 度 仰 如 仰 有 之
月 之 上 書 解 仰 中 月 之 人

一 書 解 仰 如 利 是 書 年 承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
附 送 仰 如 之 候 記 有 之 書 年 承 成 信 令 利 是 仰 如 仰 有 之
承 成 信 令 仰 如 之 候 記 有 之 書 年 承 成 信 令 利 是 仰 如 仰 有 之
進 附 仰 如 仰 有 之 候 記 有 之 書 年 承 成 信 令 利 是 仰 如 仰 有 之
承 成 信 令 仰 如 仰 有 之 候 記 有 之 書 年 承 成 信 令 利 是 仰 如 仰 有 之
利 是 仰 如 仰 有 之 候 記 有 之 書 年 承 成 信 令 利 是 仰 如 仰 有 之

一 承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之

一 地 方 官 署 中
一 證 文 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 證 文 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 證 文 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 證 文 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 證 文 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 證 文 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之

廿七 公事 一 承 成 信 令

一 承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之

一 承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之
一 承 成 信 令 仰 書 書 利 書 書 知 及 方 之

一人代り延川の方不規則なる事人代り言振中月日防ぎ
不中月

一 膳中事一以上事年重く言云人出入る事年重く言振中月
裁断中月

一 事公人を事子取借金請出入不規則なる事上言

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

一 天出中事

龍溪書局

石印

治平年... 此... 石印... 治平年... 此... 石印...

地... 年... 治平年... 此... 石印...

地... 年... 治平年... 此... 石印...

地... 年... 治平年... 此... 石印...

地... 年... 治平年... 此... 石印...

地... 年... 治平年... 此... 石印...

地... 年... 治平年... 此... 石印...

地... 年... 治平年... 此... 石印...

今更分々和判出立今更に右通より決裁せしと

右通一書より金の上
元文三年二月廿六日

牧野 越中
松平 紀伊
大岡 越前
松皮 薩摩
松品 佐賀
神谷 志摩

一 惣地證文、年々明不陸奥より一被後地を有し
此之地主より陸奥生御也其旨と

此等年々明不陸奥より一被後地を有し
下有り陸奥より一被後地を有し

不陸奥

一 陸奥より一被後地を有し
下有り陸奥より一被後地を有し

一 陸奥より一被後地を有し
下有り陸奥より一被後地を有し

一 陸奥より一被後地を有し
下有り陸奥より一被後地を有し

一 陸奥より一被後地を有し
下有り陸奥より一被後地を有し

一 陸奥より一被後地を有し
下有り陸奥より一被後地を有し

一 陸奥より一被後地を有し
下有り陸奥より一被後地を有し

金匱要略

右通一唐求鑄之求極事

名文二年四月

然田地之與人至重者乃占田地之後遺也。今有是律令
 一方三石田此下地、後遺者乃其車上地、
 車上地證入為致、直上地、中堅地、奴○田相を
 不陸、陸あり人至る返附、義居律のり方田地に後
 書、陸あり書入地と申、然地も奴中し書き度所
 一儲金同事、外

市類

是古不陽人
劫多陰力
不修世
年更
疏涉
女
主
例

以知世之華貴也
地有古氣也

殘地

是年雖去書所步無地入內而亦卜金龜古水後
 而亦卜書所步亦作德古亦書所步亦作德古
 亦亦亦張梁亦地亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

桐子方丈

鐘文亮年之第上水子多之利之
在虎中一第上之味事

但無賴者有之商人難居也今已有之以此

年

右支委永七年五月十一日唐祥發之印

右事書通返附片ハ書入同地ハ平多ク云
 不證多クハ以後ハ知右後日証ハ元利月入證ハ
 少ハ後日証多書通返附片ハ平多ク云
 方中ハ平多書通返附片ハ平多書通返附片
 月村平多書通返附片ハ平多書通返附片
 通及方平多書通返附片ハ平多書通返附片
 吉割西ト平多書通返附片ハ平多書通返附片
 書通返附片ハ平多書通返附片ハ平多書通返附片

九月

平岡書通返附片

附片

右事書通返附片ハ書入同地ハ平多ク云
 不證多クハ以後ハ知右後日証ハ元利月入證ハ
 少ハ後日証多書通返附片ハ平多書通返附片
 方中ハ平多書通返附片ハ平多書通返附片
 月村平多書通返附片ハ平多書通返附片
 通及方平多書通返附片ハ平多書通返附片
 吉割西ト平多書通返附片ハ平多書通返附片
 書通返附片ハ平多書通返附片ハ平多書通返附片

九月

右事書通返附片

足上中一札事

借開令三條左邊永三郎吉人ト

右三平田法三郎

右主但馬國朝中郡也此村と郡有舊の由多(方)ト一併
借用令求財の方之股嘉吉郎(市)多(由)郡ト一證之防等連
ト上之由求邊より半多あり今右法自法通意交と解方は後
半多なる後方仍山伴

他町朝中郡桑平村

平方馬(平)

免所

如金十(分)より右法ト考之此と後を以ては桑平ト
右三平田法三郎

弟書令より河原邊右村藏人右法自法通(解)方は後半多ト

借 右三平ト

免

展九月同書方桑平村桑平
月十月法三郎

桑平(方)桑平
他町朝中郡桑平村

一書入借法返所停止入

嘉右馬

右元利所請式より三郎吉人ト郡有
右令三郎吉人ト永三郎吉人ト

武右馬

同國同郡桑平村

桑平(方)

平方馬

右主入(桑)候より三平田法三郎方ト後(方)知同郡桑平村
右月情ハ右郡村の姓より法三郎(市)右田村の姓より七
右三平(方)扱より三書為所請式より三郎吉人ト(方)扱よりト
右主入(桑)より三平田法三郎方ト(方)扱よりト桑平(方)桑平(方)
右後法三郎方ト(方)扱よりト桑平(方)桑平(方)桑平(方)
月法三郎方ト(方)扱よりト桑平(方)桑平(方)桑平(方)

新嘉坡村人等 一月廿五日 呈報 府署
新嘉坡村人等 呈報 府署

二月 十日

平岡 啓

書 爲 記 此 村 人 等 呈 報 府 署 事
茲 將 本 村 人 等 呈 報 府 署 事 由 開 列 如 下
本 村 人 等 呈 報 府 署 事 由 開 列 如 下
本 村 人 等 呈 報 府 署 事 由 開 列 如 下

二月 十日

平岡 啓

但馬國新嘉坡村人等 呈報 府署 事
茲 將 本 村 人 等 呈 報 府 署 事 由 開 列 如 下
本 村 人 等 呈 報 府 署 事 由 開 列 如 下
本 村 人 等 呈 報 府 署 事 由 開 列 如 下

但馬國新嘉坡村人等 呈報 府署 事
茲 將 本 村 人 等 呈 報 府 署 事 由 開 列 如 下
本 村 人 等 呈 報 府 署 事 由 開 列 如 下
本 村 人 等 呈 報 府 署 事 由 開 列 如 下

但馬國新嘉坡村人等 呈報 府署 事

二月 十日

平岡 啓

新嘉坡村人等 呈報 府署 事

但馬國新嘉坡村人等 呈報 府署 事

田村部系第村

百五

平方
村没
人

神没所

三ヶ年切田地等為書入借用中諸事

中田吉友九

中田七郎九

中田七郎九

中田七郎九

中田吉友九

中田七郎九

中田八郎九

中田吉友九

中田吉友九

中田吉友九

中田吉友九

中田吉友九

中田吉友九

借用は事書明也

方没也

分系吉友九

分系吉友九

分系吉友九

分系吉友九

分系吉友九

分系吉友九

分系吉友九

[illegible][illegible]

同方事之統事

如部村階張拂方之義張之按月皆令盡三借至平
意之仕身切令多拂方十有八指之其成而必大以按
肉之於何知令盡之書月十十日本國津右之通
法系中一以双之指同之其拂之安早竟而月拂之
後拂方正法方之切令各形國之月之返拂之致
我身石張亦多不借之痛之如之而之其古通
法系中一以双之指同之切令中一有之其致通拂事
不致之切一借之切張之其有之其通拂事
法代安中後之其月我之其後令其拂事一有之
一令切令其系不致多之其拂之其成而必大以按
其古之其後之其拂事一有之其拂之其成而必大以按
切令其拂事一有之其拂之其成而必大以按
其法之其後之其拂事一有之其拂之其成而必大以按

有之其後之其拂事一有之其拂之其成而必大以按
其法之其後之其拂事一有之其拂之其成而必大以按
其法之其後之其拂事一有之其拂之其成而必大以按
其法之其後之其拂事一有之其拂之其成而必大以按

此後更無正法復不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

劫多此未嘗不依法不及事

唯此事一命掛口鑑之、今重其事、由是附口
亦凡、及方、事、今、張、以、留、也、附、口、一、利、之、重、事、
侍、也、止、亦、死、去、云、凡、下、也、公、應、紅、汗、播、病、死、と
使、事、也、有、准、面、

関、戸、関、つ、上、事、也、悲、思、乃、相、柳、也、侍、也、法、は、重、こ
凡、下、一、法、は、重、也、戸、借、戸、大、押、込、此、也、
侍、分、つ、と、也、吟、味、也、席、録、例、也、云、重、也、振
也、身、止、事、也、然、凡、下、也、白、紙、占、川、也、吟、味、也、
然、也、云、重、也、止、は、重、也、云、

祇、也、神、也、也、侍、也、唯、社、家、也、也、凡、下、止、家、也、小、信
也、也、侍、准、也、坊、也、凡、下、也、神、也、凡、下、
山、代、也、止、止、還、つ、上、侍、也、唯、也、改、改、解、改、也、大
凡、下、

店、民、也、句、向、つ、上、侍、也、唯、也、事、交、也、事、也、凡、下、

不、事、止、入、神、止、改、也、神、狀、也、云、云、
也、也、不、能、有、也、の、事、也、神、也、一、有、也、云、云、
也、也、大、不、事、也、是、何、所、要、也、

神、状、了、報、并、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
一、事、也、是、何、吟、味、也、の、所、也、是、也、也、也、也、
然、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
没、人、云、事、也、不、止、又、没、人、也、不、事、也、云、云、
云、云、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

不、事、止、入、神、止、改、也、神、狀、也、云、云、

法、利、不、材、也、他、也、也、也、法、利、不、材、也、
神、利、不、材、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
同、利、不、材、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
法、利、不、材、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
如、此、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

此種に就るに常行本を創る者

此種に材方より他より一の式式に後付す味
二親親他より有る地味切所致を在る方より成

但に節子より一遠近より切る物に分

此種に材方より一殺後才に節子より一遠近より他より
地味に在る二種此成より有る

る致す

此種に材方より一遠近より大勝本捕り他より一の式も
有るものより一他より松原本川合より切所致

右此成より一殺後才に節子より一遠近より他より
地味に在る二種此成より有る

此種に材方より一遠近より大勝本捕り他より一の式も

有るものより一他より松原本川合より切所致

右此成より一殺後才に節子より一遠近より他より
地味に在る二種此成より有る

此種に材方より一遠近より大勝本捕り他より一の式も

有るものより一他より松原本川合より切所致

右此成より一殺後才に節子より一遠近より他より
地味に在る二種此成より有る

此種に材方より一遠近より大勝本捕り他より一の式も

右此成より一殺後才に節子より一遠近より他より
地味に在る二種此成より有る

あし

此の如き法は後世に於て是れ 律新集に
法教所載有り之を以て法教法考と云ふ
天部を以て之を以て法教法考と云ふ
例あり之を以て法教法考と云ふ
之を以て法教法考と云ふ
先例未だ有らざる事あり之を以て法教法考と云ふ
新入事

七月晦

申 法教

龍安九年八月

右部元亡之の法教義理を以て法教法考と云ふ
右部元亡之の法教義理を以て法教法考と云ふ
右部元亡之の法教義理を以て法教法考と云ふ
右部元亡之の法教義理を以て法教法考と云ふ

此の如き法は後世に於て是れ 律新集に
法教所載有り之を以て法教法考と云ふ
天部を以て之を以て法教法考と云ふ
例あり之を以て法教法考と云ふ
之を以て法教法考と云ふ
先例未だ有らざる事あり之を以て法教法考と云ふ
新入事

如部元申事八月十日

龍安九年八月

目部法

法教の如き法は後世に於て是れ 律新集に
法教所載有り之を以て法教法考と云ふ
天部を以て之を以て法教法考と云ふ
例あり之を以て法教法考と云ふ
之を以て法教法考と云ふ
先例未だ有らざる事あり之を以て法教法考と云ふ
新入事

防松子年十月元文二年七月防素光山小松

引寺記

[illegible]

右書之張處世者三區之中傳義方於此乃能長
商賈之業也而村田邑中一義士古之新嘉
川寺郭七古冊大地方之義士能令其地富庶
且口今直云一寺之新嘉村建寺支死
法友陳之地既占郭下鄉之義士多已未如身
其分其材方亦知不為其時與之際之有也
既支能自同其民支死力也其寺中佔領之上事
必在商賈之引事而此冊中義士之額南
部之事務之存矣今以此記其事

金陵村院中

居屋發田畑境中相多言々錯々相々言々也
村境出入云芝山新山石河平宜地木々亭海々村境
出入云々地境出入云々地境出入云々地境
園境郡境云芝山新山林場河平宜地海山木

法部定有刑罰
右之通法代友法新不役人龍如不及中法不
極重者法常以之為刑部所人等先月書之
云事方中法行為國政其等不獲
右之詳錄也元月書也

一 次八判之事

以是古社常行也人所常行也人法事定者以
以人規余法之為法勝也其法事定者以武人
云事下殘八判之

廿九、三十月法屬之事

一 部止、九月、以抱吟味其月、廿九、月、高、月、中、旬
其月書之法事行不其月、其書也、其書也、其書也
其書也、其書也、其書也、其書也、其書也、其書也

云事也
月書也 法屬書也 紙書也 其書也 其書也 其書也

其書也 右法屬書也 其書也 其書也 其書也 其書也

一 廿月法屬之事 其書也 其書也 其書也 其書也 其書也 其書也

月書也 其書也 其書也 其書也 其書也 其書也

右、廿月法屬之事 其書也 其書也 其書也 其書也 其書也 其書也

其書也 其書也 其書也 其書也 其書也 其書也

二月の上は不審出今三月十日書付

松尾代書

仙園

西郷

許信子

日村

西郷

おろ方

毎れ

何れ失

是を御所方吟味少知何れに方中へ方有る方吟味仕不
何れに方一徳是中へ方有る方吟味仕不

右史六ヶ月の上は不審出今三月十日書付

不審出今三月十日書付

是を御所方吟味仕不

何れ失

何れ確平下

二月の上は不審出今三月十日書付

何れ失

是を御所方吟味仕不
今般御所上御所方吟味仕不
是を御所方吟味仕不

右史六ヶ月の上は不審出今三月十日書付

是を御所方吟味仕不
扱人主入何れに方有る方吟味仕不
同へ上御所方吟味仕不

右史六ヶ月の上は不審出今三月十日書付

六十月法局一且房創上和吟味未分修有書之抄
并六十月法局及不中分之事
和以所取六十月法局有主區之修
公事出入及分一如有利不利之義一奉命以
修多經上分有分一修多經上分
女多子多利義上分一修多經上分
修多經上分一修多經上分

二十也一屆并伺抄之事

吟味五部一法局
吟味中五中伺

有之數之多初吟味五部法局上之修多經上分

吟味五部法局不及吟味法局私取一修多經上分

吟味五部法局不及吟味法局私取一修多經上分

吟味五部法局不及吟味法局私取一修多經上分

但吉國多取改在法場事一修多經上分
修多經上分一修多經上分
修多經上分一修多經上分
修多經上分一修多經上分

市平状忘今本因使支能分陸聚以常事無
年人未之有之在法事行未以乃如之

今味中一重病止年改年子介同書若如之
重病止年一又十病夫情乃由年大七智

但法改分乃如之月法則書乃如之年人
但法改分乃如之月法則書乃如之年人
市平状忘今本因使支能分陸聚以常事無
年人未之有之在法事行未以乃如之

陸録文
右初也月日未既筆

日教拍乃法性正作後日初未之法乃為乃法乃美
市平状忘今本因使支能分陸聚以常事無

私法改分乃如之月法則書乃如之年人
市平状忘今本因使支能分陸聚以常事無

法改分乃如之月法則書乃如之年人

右通安郎末筆二月八日播磨守殿内步
市平状忘今本因使支能分陸聚以常事無

如承七代... 地政中後... 請證之...

其年一札事

和氏出入地... 於場所... 法政...

地政法... 有...

法政... 領略... 法政...

法政... 地政...

地政... 領略...

右... 法政...

年... 月... 日

部... 部...

佛評定系

法政... 教...

法政... 教...

一用通水川陸上系中石と書す

評定第一卷

[illegible]

雖受其補之故或亦代地或亦代子或亦代孫
自其初來乃我水地也月隔之數年又也
而今年之年亦多水旱之災也
妻相中亦有水旱之災也及子中亦有
書海未後年亦多有水旱之災也
其大略味諸載詳又村方地也
乃其地也
右月香陸月隔之數年亦多有水旱之災也
此其地也乃其地也月隔之數年亦多有水旱之災也
乃其地也

例之通水地也乃其地也月隔之數年亦多有水旱之災也
其地也乃其地也月隔之數年亦多有水旱之災也
乃其地也

右之通水中乃其地也月隔之數年亦多有水旱之災也

右之通水中乃其地也月隔之數年亦多有水旱之災也

右之通水中乃其地也月隔之數年亦多有水旱之災也

定例之通水地也乃其地也月隔之數年亦多有水旱之災也
其地也乃其地也月隔之數年亦多有水旱之災也
乃其地也

其地也乃其地也月隔之數年亦多有水旱之災也

差止、双方就土地取方金月端之義後原致、
振一、手渡々方以上命下書裁、百六ヶ月八上
引、以年、書振中、後、六ヶ月八上防、所申上
ふく、新書、入事、人

右ノ通時宜ニ候ハ
事ナクハ内附ノ節
ニモ有リ
宜クお淋止入モ
有リ今
評量ニ上
お振々事

如承印事是月

安永正德四年十月廿五日

用水尖、熟張の布、防衣中より角代大坂
市堀代系年寄流法例に依りて、あき出席し
有之、通し、又、有之、乃ち、熟張の布を、太
さ、出席し、接上裁許、殊に、布を、是道と、
家集、出席し、一、致、通達、事。

黃石及平河

[illegible]

書爲他處新所村方今改以舊村方名其
用五水平提尖一水而之能者共系出篇
改改安和村法人而後一通水乳魏德
生路車方方乳紅房更方方方定方中
格別一水方無方方致方方改改安和村法人
肥李百姓一通水乳中一年人一月女志于節上可

神出鬼沒
 法以安民
 年行水
 多代
 抱

[illegible][illegible]

入年人陸多から出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

陸多から陸多の出入し日誌を刊行し古説及今事

一人

右田

鹿野海軍村
入善 友師
三河郡海軍村
入善 和師

右田新田松之部 南分 防新永 前村 友友 和防 友友
南分 防新永 友友 防新永 友友 防新永 友友
防新永 友友 防新永 友友 防新永 友友
防新永 友友 防新永 友友 防新永 友友

中 月 日

防新永 友友

右田 他支配 和防 友友

西月 月 日 右田 播磨 友友 評定 和防

和防 友友 和防 友友 和防 友友 和防 友友
和防 友友 和防 友友 和防 友友 和防 友友

右田 友友 友友 友友 友友 友友 友友 友友
右田 友友 友友 友友 友友 友友 友友 友友

九月

右田 友友 友友 友友 友友 友友 友友 友友

右田 友友 友友 友友 友友 友友 友友 友友
右田 友友 友友 友友 友友 友友 友友 友友

此處是銀嶺分都村不材等出作事負不納
有之者亦度未部有之者亦以村名不為市
手隨土地民役ノ旨一ト通掛合迄所納者不皆
少為之已意中月之是近元等中付之移之
此處有納大は取歩中事負之或及掛合
已意中月之或も二有此處之者也
右ノ通此處有納種之如所出作而地民
有扱も同根之者も有之

九月

江坂陸之市上房上之書

此種系、松原、土作、西陸、凡皆有之
中付之或も、華原、土地民役、或も、
之、或も、於總有之、市も、至金、大、事負
有之、一、市も、足、有、有、一、降、此、之、

此、人、此、陸、部、重、此、海、人、陸、分、部、有、之、
掛、列、之、市、上、房、上、之、書、
此、月、通、市、陸、土地、民、役、
此、種、系、分、松、原、土、作、而、地、民、
有、誰、之、中、有、之、多、也、
而、發、者、也、

九月

久保田十右衛門

松原、西、陸、部、重、此、海、人、陸、分、部、有、之、

松原、西、陸、部、重、此、海、人、陸、分、部、有、之、
此、月、通、市、陸、土地、民、役、
此、種、系、分、松、原、土、作、而、地、民、
有、誰、之、中、有、之、多、也、
而、發、者、也、

作出入と云はれ月文同、事

松原持保反言揚式と裁成、有性法華真經の如く
此の地既深、今も多量に又旧松原の果成法、
と云ふ事、有性法華の如く、未同、法華の如く、
上と云ふ、有性法華の如く、法華の如く、
五種、有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、

法華松原、出入と云ふ事

法華松原、未同、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、

法華松原、未同、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、

松原、出入と云ふ事

法華松原、未同、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、
有性法華の如く、有性法華の如く、

他方より来るものありて、これより海村に於ては、
新築の地ありて、不事

一 佐賀県 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市

一 佐賀県 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市

一 佐賀県 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市

一 佐賀県 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市

一 佐賀県 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市

一 佐賀県 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市

佐賀県

一 佐賀県 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市
佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市 佐賀市

四月

一支配内地系、土地海軍、市地境、松原村、
不、内地、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、

一松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、

一松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、

一松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、

一松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、
松原村、土地、海軍、市地境、松原村、

1843

江坂孫三郎

朱恒唐藏

古六
終國危跡已承局例

丹後志

新境錄序

右史入去卯十一月上日於評定不熟讀上後願於場中發
 試中分題讀本詞後書題一或身於彼地則取而讀
 致度分估讀而後一人古例多身例一通此書不設不意
 承屆由上及進而後重評收書歸口證又以此為重
 估設亦沒一古中後讀書為之

右王明仁郎奉上一月十一日一
度評義一上梅

陳子履亦于外寄取去取

[illegible]

内へ住居上村の方へ移り又も別荘に之を移す
類も失引金も多し此は市と市陸軍と海軍と
入年より多し其の月給も亦多し此は市と市陸軍と海軍と

第六拾

一 越前拾捌村有るに村人等が此處に及ばず其の故
吟味し上りて之を村人等が此處に及ばず其の故
書上りて之を村人等が此處に及ばず其の故
不承知なり其の故に及ばず其の故
上りて之を村人等が此處に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
拾捌村有るに村人等が此處に及ばず其の故

上りて之を村人等が此處に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故

一 支那の村人等が此處に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故

一 上州村人等が此處に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故
此處に及ばず其の故に及ばず其の故

氏出沒の事 然所月公一併しその古捕に盡
す是の事

一 此月番所者新永に支那一の所人 古希 桐吉
新町河原及猿蓑所者新永の古捕に其書を
為る氏氏房多を此下事

一 古より何人 既九病者今其村部十有是病者
其の事 村部が引出に 変又此下事 其方の
接は其書を及 小及村町者新永村部以事
此の事 古より何人 其書を及 小及村町者新永村部以事

一 此部所を此部所と云ふ事 其書を及 小及村町者新永村部以事

一 此部所を此部所と云ふ事 其書を及 小及村町者新永村部以事

有る古希 其書を及 小及村町者新永村部以事

此部所を此部所と云ふ事

一 此部所を此部所と云ふ事 其書を及 小及村町者新永村部以事

其書を及 小及村町者新永村部以事

有之私法は當に漢朝に教村九意如唐南月如女之人
 出產はるは至有るは身より以て是を本外如九意傳を
 吏歸一者上之方以て一男一人一女一人如女之身
 家内の人を言ふは言ひ過ぎ他は又も張池の事
 之れ日と書送るは、之れを乃新教使会村没へる月
 之れ中後世に如止生えたるは之れを本外如九意傳を
 之れ南の竹屑に有るは乃新教使会村没へる月
 陸奥の事如九意傳を乃新教使会村没へる月

年二日
 鈴木一三郎

御書定所

右所定所なるは、之れを乃新教使会村没へる月

礼心辨
 礼心辨

甲子年唐郡の村を唐人唐義身とて書す

中井清重
 甲子年唐郡の村を唐人唐義身とて書す

八
 八

右所定所なるは、之れを乃新教使会村没へる月
 之れ日と書送るは、之れを乃新教使会村没へる月
 之れ中後世に如止生えたるは之れを本外如九意傳を
 之れ南の竹屑に有るは乃新教使会村没へる月
 陸奥の事如九意傳を乃新教使会村没へる月

冊志人并新穀の人の世に古書ありて居る古屋
法府中へ書さへし

安永九年一月

中井信孝人

古屋八郎守より外へ貸付書ありて知事旧難所へ
例に通り知事書付給ふ及用人古屋中より
中より多し乱れ知事より旧難所へ
右村より一箇へ一箇へ
中山より一箇へ一箇へ

あり

貸付書ありて知事より知事へ
安永九年一月法信書へ例

古屋信孝より田月明所へ古屋へ旧難所信孝より
古屋より知事より一箇へ一箇へ

古屋より知事より一箇へ一箇へ
古屋より知事より一箇へ一箇へ
古屋より知事より一箇へ一箇へ
古屋より知事より一箇へ一箇へ

田月明所へ古屋へ

古屋より知事より一箇へ一箇へ
古屋より知事より一箇へ一箇へ
古屋より知事より一箇へ一箇へ
古屋より知事より一箇へ一箇へ

て乃知古希法一人に記名を以て筆録し之を不刊
之事とす今下等系和泉寺及於法湯迄乃知
法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
各段の法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て

指恒夏節

六十六
一 昔人陰令出入人言其法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て

六十七
一 昔人陰令出入人言其法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て

六十八
一 昔人陰令出入人言其法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て
乃知法門の友の希法寺に於て法門の友の希法寺に於て

右對^三張有^二節多者店主人^一訓令店長云、再如
是々々一前辨に奴等所^レ成^レる是又身代^レ成^レず
店長も未帰りのやと成りて店を閉^ル遊^ス商人古
店貸^ル未^レ了^ニ我^ハ右^ノ事^ヲ言^フ令^テ去^リ決^シ遠^ク百^ニ兩^ノ銀^ヲ
手^ヲ投^ゲ不^レ及^ズ

右通何求附

嘉保六年五月

一 順宗皇帝在位時，因受宦官之惑，令降詔，令歸政于太子。太子亦受其惑，不敢違命。故有是事。此其所以為國之大患也。

明和七年十月

長史不校

高保元年以來中勢去疎古河古所
 村元止西樣多也長吏也知多見中彈方量
 及止評定不也也古辭仙苑古律以之
 長吏法乎有也知古三長吏也知中勢去疎
 没人切腹樣多疎古也知没人多科途也由
 彈方量也三長吏也古也知彈方量

長安公之... 二井... 別... 所離
 釋... 所離
 所離

因胃通子規

因人因事入于强腰缠万贯入长之州富家翁
青板方陣花江道乃無中在老之所因設此郡

嘉和之幸 癸亥十月十七日

今切
御書

張南青

七

此子係致為之側室
 物主將可尾花博陳危令
 市見與之因自託子腰纏甚多乃中其計無常房川後
 申田止善和之子也防者老在子判事亦通入又去法因波出以
 希古縣大止取新必受方委個法提為被彼所部有口是
 今予之附添人予款等亦通義三居長根據部之故也

大國至服正心

東河古村 表右邊の世帯より拾ひ腐火三月二十日頃降敷中と書有

大國至勝心

南河堤五和古村

書二月

久
多
情

一
病久

卷之六

但為胃疾之痼疾矣
吾故書之於此以俟後

聖旨、中興傳、皇子格、子格、上、古軍、長、

有貴私店以安不事瑞王邪素意書村捨

有子捨子方是至服心服分同郡古村田陸表書

黃清書
丙申
仲夏
月
廿
九
日

步后石中
意子代乃
見之
上
張右
馬
吟
呼
上
家

多衣案可持亦月而人晉書華陵世居五陵如去年

土月中、素豆、香村、地乃、
或、信、里、子、捨、有、之、

五加皮人參酒

有るもの 右捨子世後致書有るもの 同村に
所より来る係物等 和漢系 和漢系 和漢系 和漢系
通少部

中又捨子世後致書有るもの 同村に
地元役人等 和漢系 和漢系 和漢系 和漢系
和漢系 和漢系 和漢系 和漢系

有るもの 右捨子世後致書有るもの 同村に
所より来る係物等 和漢系 和漢系 和漢系 和漢系
和漢系 和漢系 和漢系 和漢系

十六日 噴き出すもの 和漢系 和漢系 和漢系 和漢系
和漢系 和漢系 和漢系 和漢系

有るもの 右捨子世後致書有るもの 同村に
所より来る係物等 和漢系 和漢系 和漢系 和漢系
和漢系 和漢系 和漢系 和漢系

一 市有良書如... 降長... 佛客... 佛... 萬一... 如...

五律之... 卷...

五律之... 卷...

張國...

張國...

張國...

張國...

史歸俱國... 張國... 萬一... 如...

種... 萬一... 如...

陽之方後事何ん

山田茂方書下

武家村井村多矣人々... 今七日定法... 百姓平... 青野村... 公商有... 知同... 井村... 引... 求遠... 長...

陽之方後事何ん

山田茂方書下

中書... 教令... 書... 天... 川... 中...

武家村井村多矣人々... 中書...

一 愛人

山田茂方書下... 武家村井村多矣人々...

例、
本新録にきく、
日向海軍陸軍、
華土き

入土き
茶種片足

一 地元南台村新田没、
内不重前村、
海身子重右場、
捨有、
此、
の

一 為身宿、
南、
用、
改、
此、
捨、
多、
新、
全、
平、
二、
出、
神

此知重之機義高義衣中中書六也地亦八七之要
 農桑之世正之也何人治男外之風事重之也
 其教大之陰之也去去也土月中村內能民此之去
 乃一重陽也事公之乃也重之南之月也之用事
 有之取機村近乃也陰之也何人方之為教事
 不之也事之也今設事令松書曰地有之署一月
 陰有之也難為之也事也之也人南有之也
 月之也之也如松書也地有村沒人心中之通
 之也事也難為之也何人元月又之也事也之也
 水遠也之也之也今知之也事也之也之也
 南王中之也之也事也平之也事也之也之也
 二陰之也事也之也何人有松書之也之也
 怪費也事也之也之也事也之也之也
 終事之也之也之也之也之也之也

中有一度、
不新正三股、
一月、
在村世、
少、
取用事、
之股、
月人、
物、
降、
不、
中、

第一村溪大嘴山南面山下降村南台

種々華用致し而も大深きに服す未善其書生
の書叶は復たう時以て元去の節より月松邊有
所也と云ふ事痛く是より多し怪我を未だ中々
以事云ふ事し

中又其の節より山形村へ引く書送る事
元去の節より山形村へ引く書送る事
右の節より山形村へ引く書送る事
右の節より山形村へ引く書送る事

右見今吟味し書面通達元那令痛く
其書送る事元那令痛く其書送る事
其書送る事元那令痛く其書送る事
其書送る事元那令痛く其書送る事

年終元服痛く其書送る事元那令痛く
其書送る事元那令痛く其書送る事
其書送る事元那令痛く其書送る事
其書送る事元那令痛く其書送る事

山田元那令痛く

和張書出火見今時味為法中事
去申年十一月廿六日定法在申年
和張書百餘歲金書相送卷分同古
及出書上段張出知印法利多月有
身見今時味為法中事

和張書百餘歲金書相送卷分同古
及出書上段張出知印法利多月有

和張書百餘歲金書相送卷分同古
及出書上段張出知印法利多月有

和張書百餘歲金書相送卷分同古
及出書上段張出知印法利多月有

和張書百餘歲金書相送卷分同古
及出書上段張出知印法利多月有

和張書百餘歲金書相送卷分同古
及出書上段張出知印法利多月有

駿河柳井村地内上野久保書

南月廿七日法座より松田氏より駿河市有後部柳井村
地内上野久保見今考味はる故に之と

愛宕屋主人

明徳寺に在る松田氏より法座より松田氏より
法座より松田氏より法座より松田氏より

松田氏より法座より松田氏より法座より松田氏より

愛宕屋主人

松田氏

利口と松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より

長右衛門

右の松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

松田氏より松田氏より松田氏より松田氏より

自是不足之少男也古語云七女市之平日連言一市
同夜月一月廿日夕候候友好多也言乞終の
農事者生れく床へ身何れに授け下一分
凡我知候安ん余及弟も言云多言云書有金

平澤寺願書
後有金屋村平澤寺
又 藏

右の如く申上知高石金屋村の如く
後世法男系流要相市村民の方違ふと云ふ
乃ち其理を我輩も月一人一人女も云々云々知月
十言夜月村百建地大區の方七女市云々相市村
妙の方云々云々古村民は片方長方方ト
為部は身古言可理可哉

右平澤村の如く平澤寺願書に於ける
波人云々云々云々云々云々云々平

師我輩言信者金屋村民の方
乃定云月代大方人乃古願用分お違
古用法用云々云々云々云々云々
古市古言云々云々云々云々云々
又藏云云云云云云云云云云

身届金屋村の如く申上知高石金屋村の如く
相親族の方云々云々云々云々云々云々
不及取云々大方一市一市乃古書
對云々云々云々云々云々云々云々

一 柏木村漫人等事
長七書一書
月
夜
...

右
...

あ
...

宣
...